

# 第 10 回新市将来構想策定小委員会

## 議 事 録

# 第 10 回新市将来構想策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成 15 年 8 月 26 日(火) 午後 6 時 30 分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	外山 康男
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりくださりまして、まことにありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第10回の新市将来構想策定小委員会を開催いたします。

なお、本日の小委員会は委員全員のご出席をいただいておりますことをご報告申し上げます。

次に、本日の資料のご確認をお願いします。資料として、会議次第、資料1、資料2、資料3及び資料4を配付させていただいております。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願い申し上げます。

それでは、議題に入ります。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

はい。それでは、これから小委員会それぞれの議事に従って進めてまいりたいと思いますけれども、いよいよ大詰めになってまいりまして、9月3日の任意協議会には素案を提出するというスケジュールになっております。そういう意味で今日と、それから29日、近々でございますけれども、この2回で全体の内容についてのかなりしっかりしたものを固めていかなくちゃいけないということになりますので、ひとつよろしくご協力いただきたいと思います。だんだん大詰めになりますと内容も多様になってまいりまして、議論していただくことも非常に多いと思いますけれども、その点ひとつよろしくご協力をいただきたいと思います。

今日は、この間の宿題にも出ておりましたけれども、新市の統合ビジョンを決定するというスケジュールになっておりますので、この間いろいろ手を挙げていただいております内容について、一部修正等を加えて今日整理をして提案をさせていただきました。そこでまた議論いただいて決めたいということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議事に従いまして、最初に新市統合ビジョンについて、これは事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

事務局の竹見と申します。よろしくお願ひします。座って説明させていただきます。

お手元の資料ナンバー1をごらんください。新市統合ビジョン検討資料でございます。おめぐりいただきますと、左側につきましては検討のための与件ということで、新市統合ビジョンを考える上でのいろんな視点をまとめてあります。右側が新市統合ビジョン案ということで、前回の小委員会でいろいろなご意見が出されたわけなんですけど、絞られた意見を四つにまとめてみました。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。この前の委員会でかなり時間をかけてご意見をいただきまして、最終的に挙手で票を読ませていただきましたけれども、どれにどのぐらいの票が入ったかというのがちょっと私記憶にないんですが、今日はこの四つに整理をしていただいた統合ビジョン、これについてご意見をいただきながら一つの方向を固めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。人財という、人は財という言葉、これは全体を通じて入れるということがこの間の会議で決まっております。それがそれぞれに入っております。どうぞご意見がありましたら、これがいいということでも結構でございますし。決まりますと、ずっとこの言葉がついて回りますので。新ながおかの一つのイメージ、キャッチフレーズとしてこの言葉が当分の間といたしますか、かなり長い間市民全体の合い言葉のような形になりまして、これを使っていくこととなりますけれども。

はい。

委員（山本俊一）

この四つの中から選べと言われたら、私はやはりわかりやすい、それからいろんな各層がスムーズにそれを受け入れられるということであれば、一番下の人財いきいき都市・新ながおかというふうなことがいいというふうに思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

ということで、ほかにご意見ございませんか。

はい。

副委員長（二澤和夫）

ちょっと比較ということで、今四つのうちベストという言い方ございましたけれども、私比較という点から見ますと、1番目と2番目というのはかなり似ているんだろうと思いますが、悠久繁栄ということはちょっと字数として多いという感じがしますし、それから悠久というはある意味においては繁栄するという意味も飽和できるのではないかというふうな気がいたしますので、この二つを比べれば上の1番目の人財悠久都市がいいのではないかというふうな気がいたします。それから、下の二つはやはり口語体的な表現、平仮名も入っていますので、やわらかい感じがしますが、この二つを比較すればやはり一番下の方が一番ぴたっとくるんじゃないかというふうな気がいたしまして、結局一番上か一番下かというふうな感じがいたしております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。除去方式といたしますか、そういう方式で今副委員長の方からお答えをいただきましたけれども、これは拝見しますと、例えば一番下の人財いきいき都市といういきいきというのは、これは日本語、日本語って変ですけども、大和言葉なんですよ。いきいきというのは。ダブって同じ言葉をダブらせて言っているというのは、日本語の特徴なんですけども、英語にも韓国語にも中国語に

もないんですよね。だから、日本語だとすぐ書かれまして、ぼかぼかとかてくてくとかちよくちよくとか、そういうふうに使われます。どうもこれはラテン系の言葉だろうと私思うんですけど、南から渡ってきた言葉じゃないかという気がするんです。私は言語学者じゃありませんからわかりませんが、イタリア語で少し少しというのはぼこぼこといいますし、何かそんなのがあるのかなと思って、いきいきというのは何か日本の言葉としては生き生きしているなんていう気はしますけど、いかがでしょうか。

今2番目と3番目はというふうな助役からのお話もありましたけども、どうぞご発言ください。ほかに何か腹案をお持ちで来られた方いらっしゃいませんか。ずっと考えに考えて、ついにすばらしいものを見つけたという。いらっしゃいませんか。

私今事務局からありましたけども、今日この四つのうちで最終決定になるか仮決定になるかわかりませんが、一応一つの案に絞らせていただきたいと思うんです。そうしますと、次に全体の流れがスムーズになっていくだろうと思うんですけども。どうでしょう、助役の方から2番目と3番目は外してもいいなというお話があったんですが、この辺はいかがですか。絶対だめだという方、いらっしゃいませんか、よろしいですか。

はい。

委員（長谷川孝）

日本の言葉ですね、今ほど委員長おっしゃいましたが、てにをはが大事だと思うんです。漢字の羅列なんていうのは、これは日本文化に反することです。そうしましたら、いわゆる3番目、人は財というのがあって、4番目、人財というでしょう。人財と人は財というのはニュアンス違うでしょう。私は思います。4番目に人が財というふうにならざるにをを変えて、その後いきいき都市とか、何かがつながった方が若い人たちに理解されるのではないかと思います。人財悠々とは何ですか、華やか都市、繁栄都市、人財悠々都市、こんなのは今の若い人に受け入れられると思いますか。もっと日本の古来のいわゆる文語格からいっても、てにをはをたおやかな言葉を伝える必要があるのではないかと思います。

以上。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。これは人がですか、人はですか。

委員（長谷川孝）

人の方がいい、「は」と「が」の文法上の助詞的な違いは、これ言語学者に任せようと思います。

委員長（豊口 協）

どうぞ自由にご発言ください。私は、「が」という発音が嫌いなんです。

委員（長谷川孝）

委員長は、「が」でしょう、私は「があ」。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（北村 公）

私も人財という財でたからとふれば補足説明してわかると思うんですけども、これやっぱり人財よりは人は財の方が、これたからとルビふった方が非常にわかりがいいんじゃないかなというふうに思います。それで、その後いきいき都市・新ながおかというふうにした方が非常に現代風であるし、わかりがいいなというふうに思います。

委員長（豊口 協）

今「が」と「は」に分かれました。

はい、お願いいたします。

委員（野田幹男）

この四つは、どれもこれも最後に残った言葉ですから、ある面では甲乙つけがたいんですけども、今いろいろの意見をお聞きする中で、それと私入ってきてちょっと見た中で、3番目の人は財という、これが次世代に非常に、我々じゃなく若い階層、次世代の若い階層にやわらかい言葉で受け入れられるんじゃないかなと、ですからこれにこだわるわけじゃありませんけれども、今も発言あったように人財と、人財てや何なの、人財なら普通人財のザイは材料の材になっていくわけだけれども、これは財産の財なんだからと申し上げても、非常に解説を必要とするようなものですから、ある面ではこれキャッチフレーズですから、語りいい、言いい、あるいはまた解説を必要としないような表現がいいと思います。私も4番目の一番最後の下のところを持ってくるにしても、人財というよりも人は財という表現の方が非常に次世代に受け入れやすい言葉になるのかなという気がいたします。

以上であります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにどうぞ。私は、「が」にこだわっているのは、日本語には破裂音が割合多いんです。これは、聞いておわかりになるとおもいますが、例えばフランス語とか中国語にはがぎぐげごという言葉がないんで、破裂音がないんですね。ニイハオマと非常にきれいなんです。結局じっとニュースなんか聞いていますと、日本語の汚さというのがそこへ出てきて、変なこと申し上げできませんけど、ばかという言葉があるんですけど、これは強烈に汚い言葉として世界的に評判になっておりまして、何か破裂音がない方がいいなという気はちょっとしているんですけど、申しわけありません。

委員（長谷川孝）

異議あり。これは、いわゆる長岡、いわゆる日本、大和の国でしょう。いわゆるヨーロッパにアピールする必要もあるかも知れませんが、我々は日常的に使っている言葉を大切にしてください。だからヨーロッパのフランスやスペインやイギリスの言葉を引き合いに出すというのは委員長のちょっとお考えとは思えません。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。今「が」か「は」という言葉で分かれています。

はい。

事務局（北谷）

私も言語学者じゃないんで、「は」か「が」か「ぐぁ」かあれですけども、ここで人財というのを我々が出してきた背景は。

委員（長谷川孝）

今我々がと言ったでしょう、我々はとは言わない。

事務局（北谷）

「は」も今言いましたじゃないですか。

委員（長谷川孝）

我々がと言った。テープとってあるだろう。

事務局（北谷）

我々が、我々は、ここを出してきたのは、人というのは財だと、大事なもんだと、それを尊重すると、その大事なものはぐくむ、育てる、それによって、その新ながおかで育った人によって、この新ながおか地域が未来永劫繁栄していくと、そういう意味でこういったものを出してきたので、私としては大意はありません。「は」でも「が」でもよろしいんですけども、助詞を入れたときにそういう意味が読み取れるのであれば、それは一向に構わないんですが、その辺ちょっと私ども言語学者じゃないんでよくわからないんですけども、そういった意味でお考えいただきたいと思います。

委員（長谷川孝）

固執いたしません。「は」でも「が」でもこの中に助詞が入った方がやわらかくなるということでございますんで、「は」でも「が」でも「を」でも何でもいいんです。ただこの人財という中に一つ助詞が入った方がよろしいのではないかと、私の意見でございます。

委員（山本俊一）

先ほど四つの中からというので、私一番下のことを話したんですけども、今ほどいろんな委員の方々からおっしゃるように、やっぱり「人は財、いきいき都市・新ながおか」というふうなら非常にやわらかくて各層から支持されるんじゃないかというふうに思いますので、「人は財、いきいき都市・新ながおか」お願いしたいというふうに思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。私も悠久という今ほかのところに入っていますが、悠久という物すごく重い感じがするんです。どすんと何か座ってしまって、重圧感を感じるような言葉なものですから、一番下のいきいき都市というのはいいなと思っております、今。小学生なんか生き生きなんてって言うと非常に活気あふれる風景が目の前に浮かんでいきますんでいいのかなと思っておりますが、そうしますと

ご意見を調整しますと、「人は財、いきいき都市・新ながおか」と、こういうことになるんですが、今日はそれでひとつ決めさせていただいてよろしゅうございますか。

「はい」という声あり

委員長（豊口 協）

はい。ありがとうございました。それでは、今日は「人は財、いきいき都市・新ながおか」、こういうことになります。まだ29日、また再度いろいろ言語学者等に聞きましてご提案をさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

それでは、次の議題になります。地域別整備・活動方針につきまして事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

続いて説明させていただきます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

資料ナンバーの2をごらんください。新市地域らしさ価値を高めるための地域別整備・活動方針です。こちらは、前回小委員会の方で自治体ワークショップのメンバーから報告をさせていただきましたけども、長岡の活動方針の部分でわかりづらいというご意見が出ましたので、修正をさせていただきました。

4ページをごらんください。世代がつながる安住都市です。真ん中ほどに長岡市の活動方針が書いてありますけれども、当初市民が想う、まちが動くという表示でしたけれども、こちらを修正しまして、市民の想いが、まちをつくるという形で修正をさせていただきました。

それから、5ページをごらんください。こちらも長岡市ですけれども、地域と世界を和らぎで結び、人々の心の中に残り続ける世界都市への挑戦という形で当初提案させていただきましたけれども、こちらを修正しまして、地域と世界を和らぎで結び、人々の心の中に残る世界都市への挑戦という形で修正をさせていただきました。

以上です。

栃尾市（外山康男）

私のところもちょっと修正させていただきたいと思えます。4ページになるんですが、4ページ、栃尾市の部分です。まつりや雁木のころと文武両道の精神を継ぎ、元気でやさしい人を育む地域ということだったんですが、まつり、雁木と固有な名詞なもんですから、ここを若干修正したらどうだということ考え、活発な町内コミュニティとお互いを思いやる心を伝え、元気でやさしい人を育む地域というふうにさせていただきたいということです。もう一度申し上げますが、活発な町内コミュニティとお互いを思いやる心を伝え、元気でやさしい人を育む地域というふうに修正いただければと思えます。

委員長（豊口 協）

これは、特にご議論をいただくということでもないんですが、この前のときに、特に長岡市の内容が非常にわかりにくいというご意見が幾つかございまして、その後検討を重ねてこういう言葉に変えたということでありまして。4ページの長岡市のちょうど真ん中にありますが、市民の想いが、まちをつくる

と、市民とまちが一体化する安住都市への歩みと、わかりやすくなりました。

それから、5ページのやはり長岡市のところの地域と世界を和らぎで結び、人々の心に残る世界都市への挑戦、これは簡潔になっております。

今栃尾市の方からご提案がありました。まつりや雁木というのは、これ決まっている言葉なので、少し視点を変えてということで、活発な町内コミュニティとお互いを思いやる心を伝え、元気でやさしい人を育む地域と、こういうことになります。特にご意見がないと思いますけども。

はい。

委員（長谷川孝）

4ページの長岡市の市民の想いという、この想いがこの想いでいいのか、思慕の思ですね、田の心がいいのか、この想いでは追想とか、何か物すごく違う想いです。考える思いと、この想いのニュアンス違うと思うんですが、委員長どう思いますか、言語学者でないと思って聞きますけど。

委員長（豊口 協）

おっしゃるとおりで、この想いというのはイメージの方が強いと思うんです。ちょっと横文字で申しわけないんですけども、一つの何か空想というか、そういうことを考えながら想いをはせるという、ですから思考の思というのは考えるということになりますから、どっちがいいかということになりますと、これはどうなんでしょう。

委員（長谷川孝）

また言語学者ですか。

委員長（豊口 協）

いやいや、どうでしょう。この会で決めていただいていたと思います。

委員（長谷川孝）

思考でしょうね、考えなのは、追憶じゃないと思います。ノスタルジアじゃないと思います。

委員長（豊口 協）

これは、事務局いかがですか。

事務局（竹見）

市民の想いというのは思考だけではなくて、イメージの部分もあると思うんです。それで、こちらの想いというのはやっぱりちょっと広い意味での想いですので、そういったイメージも含めてそういった市民の想いというのがまちをつくるという形でつくっております。

委員（長谷川孝）

事務局のお考えわかりますけど、この想いはマイナス志向の想いですよ。田に心というのは、これからの自分で考えます、やります、思いますという物すごくプラス志向の思いだと思うんです。その辺もう一度お考えいただきたいと思います。これは私の意見です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。これは、次回までにいろいろ検討をさせていただきまして、また再度ご提案したいと思います。

ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（村上雅紀）

5ページの小国さんの、私聞き逃したかわからないのですが、へんなかツーリズムというのは、これどういう意味だったでしょうか、小国さん。ちょっとこれ見ただけでよくわからないんですけども、言葉そのものがちょっとよく。

委員（長谷川孝）

へんなかというのは一つの方言です。昔私どもの年代ですと、家があって、いろいろな居宅があって玄関入る土間があって、そしてそのわきにかまどがあり、いろいろな生活の場がありました。それからちょっと上がりますと、いわゆるいろりというのがあったでしょう、ご存じない、いろり、わかるでしょう。そのいろりの端に座るのがへんなかです。へんなかというのは火の端という意味です。言語学でいうと。火の端と書いて、それを方言的にへんなか、そこでいわゆるいろりを囲みながら一家が団らんし、お客を呼んでどぶろく飲んだ、そしてそこでコミュニケーション持ったと、だからへんなかというのは物すごく温かさがあるわけです。火というのは知っていますか、お若いけど。

委員（村上雅紀）

いろりの火。

委員（長谷川孝）

いやいや火は知っていますか、いろりだけじゃなくて。いろいろの火というの。

委員（村上雅紀）

炎でしょう。

委員（長谷川孝）

はい、炎でもいいし、火ご存じですか。それで、いろりの中に何で火をたきますか。何がその材料になりますか。今みたいにガスじゃないでしょう。電気じゃないでしょう。山から切ってきた桃太郎じゃないけど、シバの木を持って、シバをそこでたいて、そこでコミュニケーション持つ、淡い炎の中で。それをいわゆるいろりと称しましたが、そのいろりの中でたく、それを火の端、そのわきにきちんと枠組みをされている木、それをへんなかというんです。だから、日本の農民民族が培ってきた伝習の一つ、その中でお互いに語り合ったり、コミュニケーションを持とうというのがへんなかであります。一つの方言です。見附にはないか知りませんが、見附も在の方へ行ってみなさい。へんなかという言葉幾つもあるぜ、ということで解説を終わります。わからなかったら小国へ来てください。実物を見せますから。

委員長（豊口 協）

はい、どうも。

ほかによろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

はい、じゃどうもありがとうございました。これで2番目の議題を終わります。

次、3番目の議題に入りますが、地域別活動展開について、これこの前もいろいろとご質問等がありまして、それを中心に今まで議論を重ねてきていただいた地域からのメッセージといえますか、まとめた内容について今日ご報告をいただいてまいりたいと思います。

事務局ひとつよろしくをお願いします。

事務局（竹見）

事務局からご説明させていただきます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

資料ナンバーの3をごらんください。新市地域らしさ価値を高めるための地域別活動展開（案）についてです。こちらは、8回重ねてきました自治体ワークショップの最終の成果です。こちらは、四つの地域らしさ価値を高めるための重点実現項目、それから各地域別の整備・活動方針から具体的な地域別の活動展開ということで整理しております。これは自治体、それから住民が一体となって取り組むべき将来に向けた具体的な方向性、あるいはその活動を示しているものです。

1ページ目をごらんください。こちらは長岡市の事例ですけれども、表の見方ですが、まず真ん中の点線がかいてあります。左の方に独創企業が生まれ育つ都市ということで、各新市の地域らしさ価値ごとにまとめてあります。なりたい姿ということで、独創企業が生まれ育つ都市、こういった高める、そういったものを高める方向性、視点が何かということにまとめて、それから地域らしさ価値を高めるために、右の方に資源の強み、各地域の資源ということでまとめてあります。優位性とか住民の方々が誇りに思うものです。そういったなりたい姿、そして活用していく地域資源を考えながらワークショップでは検討してきたものが、前回発表していただいた下側の左側に書いてありますように、これが地域別の整備・活動方針です。今回ワークショップのメンバーからご報告をいたしますのが右側に書いてありますような、見極める、それから発信する、育てるという観点でまとめた各地域ごとの実現していくための活動ということで整理してあります。これが新市の地域らしさ価値ごとにまとめてあります。

それでは、今日ワークショップのメンバーが出席しておりますので、ワークショップのメンバーから直接ご報告をさせていただきます。各市町村5分程度でよろしくをお願いします。

まず、長岡市からお願いします。

長岡市（熊倉）

長岡市から説明させていただきます。ちょっと座らせていただきたいと思います。

まず最初に、活動方針としまして、世界のモデルとなる独創企業生育拠点への挑戦という、そういったことでそれらを実現していくための活動展開が右側の方に記載されています。

まず最初に、見極めるという観点ですが、ここについては連携による新技術開発だとか、そういったものの環境整備をよくするために、そういったものを書いてあります。具体的には、ものづくりや起業者を支える産学官の連携を含む新たな地域社会ネットワークづくりやビジネス環境の整備ということで、これらは情報収集や、それから多様な交流機会をコーディネートするとか、さらに革新的経営基盤が弾力的に運用され、発展されるような地域環境づくりと、そういったものによって展開していきたいというふうに提案しております。

発信するにつきましては、ここでは先端技術や伝統技術を生かしてそれらを発信したいという意味合いで、地元の技術力を国内外へPRしたりとか、そういったものをいろんな多角的な情報発信を強化すると、それから職人、技術者集団による夢のあるものづくりの実現と発信をしていきたいというようなこと、さらに長岡技術科学大学で昨年、今年と21世紀のCOEということで、これは全国大学の中で特に世界最高水準の大学づくりということで、それらを地域に還元したり、また世界に発信するというところで、今年認定されたものがグリーンエネルギー革命による、廃棄物やバイオマスによるエネルギー生産ということでございまして、これらと連携しながら新エネルギー価値をさらに自然と共生するような環境型の企業への支援と発信になればというふうなことで提案しております。

育てるという観点では、ここでは企業の方々、それと子供たちの育成ということで、一つにはオンリーワン・ニッチトップ企業を促進する産業支援機能を強化、高度化したいということ、特に長岡の場合はオンリーワンというような企業もありますが、ニッチトップ、要するに大企業がやらないようなそういう製造を、中小の企業でありながらも全国及び世界的なシェアの高い、例えばマコーだとか小西のような表面処理加工とか、それからメッキの技術、ほかにもいろいろありますが、そういった技術を持った企業を促進するような、そういった支援機能を強化したいというふうなことです。二つ目としましては、異業種交流の次世代に向けた促進プログラムの開発、さらに世界的視野に立った理数系、技術系に照準を合わせた実践的教育の取り組み、実際これは長岡高校で文部科学省の方で指定を受けまして、将来の優秀な人材を教育するために大学と連携したカリキュラムなど行っています。そういったようなことを今後も展開していくべきではないかなということで、提案しております。さらに、産業界の人材が学校教育から生涯教育までさまざまな教育活動に参加する仕組みづくりということで、長岡では今年の2学期以降小学校にそういったカリキュラムを起こそうということでやっております。それらをさらに発展させていくというふうなことで考えております。

次です。次が元気に満ちた米産地ということで、日本の食文化の誇りを育て、伝統を生かした「新ながおかブランド」の食の拠点として全国への展開ということでございまして、まず見極めるということについては、食材、食材加工について特に述べております。研究に裏づけられた技術力の普及等、生産履歴の明確化による消費者への信頼性の向上、さらに先端工業技術の活用による新しい安全、安心の食の開発の強化、それから長岡米や長岡野菜など長岡でしか味わえない名物郷土料理や特産品の開発に力を入れたらどうかというふうに提案しております。

発信するにつきましては、販売、食の観光ということで、外食産業などとタイアップしたブランド品の普及や促進のほか、それらがつくられます自然環境、農村地域と一体となった農産物のブランド開発というふうなことも展開していくべきではないかなということを提案しております。

育てるにつきましては、農業技術者、体験学習を通しての子供たちへの教育、さらに環境という観点で、一つは地域の環境、活力を守り、支えるための農業地域再生を目指す取り組みの実現とかバイオテクノロジーを活用した農産加工物の育成、さらに環境に配慮した活動、それから体験農業によるそういった環境の保全を促す心育成と、さらに農業技術者の育成というふうなことを提案しております。

続きまして、世代がつながる安住都市の方ですが、「市民の想いが、まちをつくる」ということで、まず一つ、見極めるについてです。これについては生活環境、福祉について述べております。市民の声や想いを集める仕組みづくりや情報交換仕組みづくりを確立したいと、さらに市民の提案や社会ニーズを施策に反映させたい。さらに、若者の活力が集まるまちづくりの実践を行おうというようなことを提案しております。

発信するにつきましては、高齢者、NPO、子育てということを特に重点的に書いてありまして、すべての世代が交流できるコミュニティの形成なり、それから福祉の拡充による寝たきりゼロへの挑戦、さらに子供の才能を伸ばすような社会づくりや仕組みづくり、さらに子育て日本一、教育環境日本一のまちづくりを標榜しようというようなことで提案されております。

育てるという観点では、生涯学習などを通してですけれども、豊かな心と強い精神を持つ子供が育つ環境づくりや、またそういった面でスクールカウンセラーなどの充実による、さらにそういったものを進めていくということです。ほかには、地域と一体になって子供たちの才能を伸ばすカリキュラムの充実なり、それから専門的な職業経験を生かしたボランティアなどによるコミュニティニュービジネスの創出なども提案しております。

最後ですが、地域と世界を和らぎで結び、人々の心に残る世界都市への挑戦につきましては、まず見極めるですが、これについては交流機会、コンベンションなどの活用を書いております。もてなしの基盤や、それからそういった体制の充実なりコンベンション機能を充実したまちづくり、さらにビジネス面などで新たな交流メニューの開発をすることによってもてなしの交流機会をつくると、ほかには地域の資源や歴史を再発見するような交流価値の発見等々で展開していきたいというふうに思っています。

発信するにつきましては、イベント、まつりなどについて特に書いてありますが、国際交流による交流の推進と平和についてのメッセージ等、それから長岡で有名ですが、米百俵、花火等も世界に発信し、長岡の心の魅力を知っていただくというようなことを考えております。

育てるということでは、都市づくり、体験型のそういった交流ということで、長岡の資源を生かした新たな観光ブランドの創出や、それから再び訪れたいくなるようなもてなし向上のプログラムの開発、さらに若者を惹きつけるような魅力的な都市文化の再構築というようなことを提案しております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、続きまして3ページ、見附市の方からお願いします。

見附市（野水）

はい、見附市でございます。それでは、ここにほぼ書いてあるとおりなんでありますけれども、一応読ませていただきます。

まず、独創企業が生まれ育つ都市でございますけれども、活動方針が高度技術・高感性をもつ人材による多様な産業の花が咲くまちの創造でございます。見極めるでは、県営産業団地を核とした異業種交流、それから産学官連携の仕組みづくりと拠点機能の創出などを挙げております。続いて、発信するでは、多様な産業の誘致・育成に向けた産業立地優位性のアピールと発信ということでございます。それから、育てるでございますけれども、多分野のエンジニア交流ネットワーク環境づくりということを掲げております。

続きまして、元気に満ちた米産地でございますけれども、まず活動方針におきましては健康に満ち溢れた農産地の創造ということを掲げております。見極めるでは、流通経路の開拓による有機食材の安定供給、それから定量消費の促進ということです。発信するでは、健康という付加価値をつけた食生活の創造、発信です。続いて、育てるでございますけれども、安心・安全な食を目指した新たな生産技術導入による農業の活性化ということを掲げております。

続きまして、3番目ですけれども、世代がつながる安住都市でございます。ここでは、まず活動方針ですけれども、健康長寿日本一への挑戦と世代間交流先進地域の創造ということを掲げております。見極めるでございますけれども、科学的トレーニング・食事法を活用したすべての世代をつなぐ健康づくりによる、まちの活力向上への展開と、それから発信するでございますけれども、医療・福祉・社会施設の融合による新たな交流モデルの創出、発信でございます。それから、育てるでございますけれども、子ども達の活動へ高齢者資源を活用することによる、元気なまちづくりの推進を掲げております。

最後になります。世界をつなぐ和らぎ交流都市でございますけれども、活動方針におきまして「新ながおか・北の玄関口」として産業と伝統の環で結ぶ交流拠点の創造ということを掲げております。見極めるでは、ホームステイのノウハウを活用した市民レベルでの国際交流の促進、それから発信するでは、ファッション産業を軸にした、新ながおかの産業観光の拠点としての機能強化・発信ということでございます。それから、育てるでございますけれども、新ながおかを訪れる人々が魅力を感じる特産品、これを提供していく体制と拠点づくりでございます。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、続きまして栃尾市の方お願いいたします。

栃尾市（飯浜）

栃尾市企画財政課の飯浜です。よろしくお願いいたします。

では、資料の4ページをごらんください。左側の上の方から、独創企業が生まれ育つ都市、下の方へいきましてWILLのところでございます。繊維産業を核とし、素材からこだわる多分野の栃尾ブランドづくりといたしております。多分野というのは、繊維産業だけではなくてやはり新しい分野の産業も十分に視野に入れた地域を考えております。その下に、繊維工業技術の幅広い活用と、きれいな水と空気を活かした新世代産業の創出地となるというふうにしております。その中で見極めるといたしまして、繊維産業の製造から販売力強化への取り組みによる産業振興と、それから研究機関と連携した新素材・新技術の開発とデザイン力の向上ということで、これは長岡造形大、それから技科大等との連携も考えられるということで載せてございます。発信するといまして、広域的なアンテナショップの展開ということですが、これはすべての項目にアンテナショップ、つまり首都圏等への情報発信ということで考えております。それから、開発・研究に適した立地環境のPR促進活動ということですが、いろんな企業がおりまして、やはり静かで自然が豊かで水がきれいな、そういったところに適した企業もあるだろうということ考えております。あと育てるということですが、地域内の高校での繊維関連カリキュラムの継続による技術者の育成ということで取り組みたいというふうに考えております。

続きまして、下の方にいきまして、元気に満ちた米産地ということですが、その下のWILLのところでございます。自然に培われた確かな素材による、『新ながおか名物』を生み発信する。自然を生かした新たな「食」をつくり広げる地域となるということなんです、ご存じのように栃尾はあぶらげが有名でございます。それらを考えまして、見極めるでは新ながおか産大豆を用いた地場産のあぶらげづくりにもっともっと積極的に取り組もうということでございます。源流の里のきれいな水からつくる食味のよい「とちお米」づくりということなんです、確かに米の生産高からいきますと長岡市が一番ということですが、栃尾にはやはり水がいいということで、それを特徴とした米づくりということでございます。あと発信するということですが、今一生懸命取り組んでおります地域内の290号線沿いにご存じです「とちお野菜」の販売ネットワーク、これらをもっと少し強化していこうということ、ここにもアンテナショップということでPR活動を挙げてございます。あと育てるということですが、地元にいる料理がありますけども、その中でもあぶらげ料理コンテスト等の促進による、新たな食文化の育成、昔ながらの煮しめ、焼き、いろいろあるんですけど、またいろんな分野での食文化をつくっていきこうということでございます。それから、専門研究機関と連携した既存特産品、あぶらげ、酒、米のさらなる品質の追求をしていしましょう、本当にうまいのをもっともっと追求していこうということでございます。右上の方にいきまして、世代がつながる安住都市、この中で先ほど訂正を申し入れさせていただきまして、修正をさせていただきました。活発な町内コミュニティとお互いを思いやる心を伝え、元気でやさしい人を育む地域ということでございます。まつりや交流を通じた地域コミュニティを守りつづけ、伝統・文化・人情を大切に思う未来人を育てるということでございます。古くから地域に伝わる

神楽舞などの伝統芸能の継承、武道・スポーツ指導を通じた世代間の交流の推進ということで見極めに掲示をさせていただきます。それで、地域アンケートの意見で集約された中で出てきたのが、現在おとなしく慎重であるというような、そういった人間像から情報に敏感で積極的かつ挑戦的に活動し、向上していきたい、自主性を持って責任のあるリーダーとしてふるまいたいという意向があるというデータが出ておりますけれども、こういったスポーツ系を推進するということは全くうってつけのことだろうというふうに考えるところです。あと発信するということですが、城山・秋葉公園・雁木通りを楽しんで歩ける地域ぐるみの「謙信の里」づくりをPRしていきましょうということです。育てるということですが、地域の人々が寄り集まる「よったかり」の場、これは方言で寄り集まるということをやったかりと言います。地域住民の一体感をつくっていきましょうということです。

最後に、世界をつなぐ和らぎ交流都市ということです。地域のPR活動、市民ネットワークの広がりにより云々とありますけれども、その中でWILLの部分で「来て・観て・食べて」楽しいテーマ型観光の拠点を育てるということでもあります。テーマ型観光、特に見るとか、それから学ぶとか体験するとか、自然の空気、水を飲んで体感するとか、そういう部分で人間の五感、六感に訴えるような楽しみを想定しております。そういった中で、新ながおかの観光交流拠点ということを目指しております。見極めるということですが、とにかく観光ルート（ストーリーづくり）と、案内機能の強化と、確かに宝物はたくさんございます。それらをやはりフラッシュアップしていくということが非常に大事だろうということでもあります。それらをまた体験メニュー、イベント等の開発、確かに栃尾が多分一番イベントの数が多いかと思うんですが、それらを一つ一つしっかりとしてつくっていきこうということでもあります。あと発信するということですが、これらに対しての地域の魅力の発信も心がけていきます。育てるということですが、観光ボランティアガイド、それから既存ルートを活用した地域外交流の促進も進めていきますということでございます。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

では、続きまして5ページ、中之島町お願いいたします。

中之島町（小野）

中之島町、小野といたします。よろしく申し上げます。

まず最初に、独創企業が生まれ育つ都市という部分なんですが、うちの町につきましては将来のあるべき姿ということで、抜群の広域アクセス性・立地環境を活用した独創企業支援地域ということ掲げてございます。それにつきましては、その実現に向かっての具体的な活動方針ということで、まず見極めるでございますが、見極めるにつきましては優れた広域交通アクセスルートによる空港・港を視野に入れた地域流通革命への挑戦ということであってございます。これにつきましては、平たんな地形からコムーター空港なり、信濃川の川うねという部分があるのかなということで、空港・港というもの

を入れてございます。もう一つが企業の活発な技術交流や連携促進の支援体制づくりということに  
てございます。これにつきましては、各企業で持っておられます知財と人材の交流の促進を支援したい  
ということでございます。発信するでございますが、これにつきましては流通拠点としての環境づくりと、  
立地優位性の強化と発信ということでございます。従業員等の住環境あるいは流通団地等としての団地  
の整備等を掲げてございます。育てるの部分でございますが、これにつきましては現在造成しておりま  
す流通団地に隣接しております文化センターを活用いたしまして人材を育てようということで、生涯学  
習拠点の活用による、想像力のある企業人育成を支援する取り組み活動ということに  
てございます。

次は、元気に満ちた米産地でございますが、将来の姿といたしましては、若く元気な住民パワーによ  
る安全・安心・美しい食産基地ということを目指すということに  
てございます。見極めるでございま  
すが、まず二つありまして、一つ目が地域営農システムの強化と複合経営の推進による自立農業の確立  
ということに  
てございまして、産業として自立できる農業をつくらうということに  
てございます。もう一つ  
が、生産履歴活動・減農薬減化学肥料栽培の拡充による高付加価値米の生産促進ということに  
てございま  
して、食に求められております安全とともに健康食としての米の付加価値を追求していこう  
ということ  
に  
てございます。発信につきましては、大口れんこんなど安全・新鮮な素材と料理法をセットしたPRに  
よる、地産地消活動の推進ということに  
てございます。幾ら新鮮でおいしい品物があつたとしても、その  
品物に合ったおいしい料理法がなければできないということに  
て、料理法をセットにした地産地消活動  
を  
しますよということに  
てございます。もう一つが、ハスの花など固有の田園風景を活用した「観せる食産  
基地づくり」と発信ということに  
て、ただ農産物をつくるではなくて、目で見えていただく感動の残ると  
いう部分もつくっていこう  
ということに  
てございます。育てるにつきましては、生産から販売まで、魅力  
ある農業を担う多様な人材の育成活動ということに  
てございます。

右側の世代がつながる安住都市でございますが、将来の姿といたしましては、家族・地域が一体となつて、  
子育てを応援する安心のまちということに  
てございます。これにつきましては、ボランティア等を中心  
に  
しまして地域福祉を進めますよということに  
てございます。具体的な活動方針の中で見極めるでござ  
い  
ますが、多様な住民組織とネットワークを活用した、参画と協働のまちづくりと生活支援の仕組みづ  
くり  
ということに  
てございます。もっと積極的な住民参画が得られるように施策を進めていく  
こと  
に  
てございます。もう一つが、子育て支援センター、育児ボランティアを活用した地域ぐるみの子育て支  
援  
の仕組みづくりということに  
て、家族数が多いという特徴がござ  
い  
ますので、老人の知恵等を借りまし  
て、地域一体で子育てを支援する  
こと  
を  
考えて  
ござ  
い  
ます。発信する  
で  
ござ  
い  
ますが、家族・地  
域  
の  
つ  
な  
が  
り  
の  
モ  
デ  
ル  
地  
域  
と  
し  
て  
の  
活  
動  
と  
誇  
り  
の  
発  
信  
と  
い  
う  
こ  
と  
に  
て  
ござ  
い  
ます。家族数が多い  
こ  
と  
で  
す  
の  
で、常日ごろから子どもさんに対して他人を思いやる心等が養われる  
こ  
と  
で  
す  
の  
で、それらの  
こ  
と  
を  
有  
効  
に  
活  
用  
し  
て  
い  
こ  
う  
と  
い  
う  
こ  
と  
に  
て  
ござ  
い  
ます。育てるの部分  
で  
ござ  
い  
ますが、すべての  
世  
代  
交  
流、生活支援の仕組みを支える地域ボランティアの継続的な育成活動  
と  
い  
う  
こ  
と  
に  
て  
ござ  
い  
ます。現在延べ1,000名のボランティアが  
お  
り  
ま  
す  
が、将来像に掲げて  
あ  
り  
ま  
す  
よ  
う  
に、一体的になるにはもっ

と足りないということで、もっともっとボランティアの育成活動を進めるということでございます。

終わりになりますが、世界をつなぐ和らぎ交流都市の部分でございますが、将来像としましては、新ながおかをつなぐ広域交流発信地域の形成ということでございます。見極めるの部分でございますが、多彩な農産物による「食」やミニ農園から生まれる「農交流」など、「食と農」を基本とした交流の創造ということでしてございます。農業をキーとした新たな交流をつくり出そうということでございます。発信するでございますが、食と伝統芸能のイベントの企画と発信ということでございます。育てるの部分ですが、「食」による「おもてなし」交流を促進する、住民パワーの育成と体制づくりということでございまして、農業のところでも言いましたように地産地消をする中での料理法等の部分につきましては、生産者が主体となって開発をして、それを交流に結びつけようということでこのようにまとめさせていただきました。

以上です。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

では、続きまして6ページ、越路町の方お願いいたします。

越路町（郷）

越路町の郷と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、独創企業が生まれ育つ都市、ここでは整備・活動方針として豊かな自然環境がつくる21世紀のクリーンエネルギーに育まれるまちの創造としました。これを実現していくための活動としまして、まず見極めるでは、企業のクリーンエネルギー利用の推進、それから資源循環型社会を目指した住民・企業・行政が共同で取り組む環境にやさしい実践活動の充実・拡大です。そして発信する。自然環境保護活動やクリーンエネルギー導入促進によるクリーンなまちのイメージ発信です。あわせて企業のイメージアップも図れると思っております。そして育てるです。天然ガス自動車普及などの新エネルギー導入にかかわる啓発、教育活動の推進と、そして企業による地域貢献活動と住民活動の一層の一体化に向けた啓発と活動の展開です。

続きまして、元気に満ちた米産地。整備・活動方針は、最先端技術と確かな技が生み出す元気のあふれる米生産・技術導入拠点の創造です。実現していくための活動としまして、まず見極めるでは生産者と専門家、行政が連携することによる最先端栽培技術の開発・導入支援と普及活動の促進、それから生産者の顔が見える販売体制づくりと米の販路の確保拡大という意味で、需要安定を目指した契約栽培体制の確立です。それから、発信するでは、確かな技術とホタルが生息する安全・安心な生産環境の発信、それから新潟の米を代表する新たなブランドの確立と、酒や米菓など米関連食品のPR展開です。育てるでは、生産組織の法人化促進と、農業従事者の若がりによる元気な米づくり地域の創出としました。

続いて、右側の世代がつながる安住都市です。整備・活動方針は、豊かな自然環境に育まれた個性尊重による人づくり地域の形成と発信、実現していくための活動としまして、まず見極めるですが、自然・

産業・地域コミュニティが融合した、住みやすさ日本一の地域づくり、高齢者・障害者と地域の人々の交流システムづくり。発信するでは、“ノーマライゼーション先進地域”としての、自然・生活環境、地域福祉活動の発信です。それから、育てるでは、町には自然と親しむグループが幾つか活動しておりまして、自然を親しむことを通して子育てや世代間交流を図りたいということで、すべての世代が自然と親しむ、グループ活動等の育成、それから中学生の海外派遣事業など、国際交流促進による子どもたちの国際感覚の醸成です。

最後に、世界をつなぐ和らぎ交流都市、ここでの整備・活動方針は自然と歴史の広域交流をつなぐ地域の形成です。実現していくための活動展開の、まず見極めるですが、数ある観光スポットの魅力度向上に向けたコースづくりによる、新たな観光プログラムの創出。発信するでは、町に学術的に価値のある地層ですとか昔マンモスの足跡など、歴史を学べる資源が幾つもありますので、それらを組み合わせまして、地域の資源を活用した、歴史探訪プログラムの開発・発信としました。それから、育てるでは、広域交流の一翼を担う地域づくりとして、地域文化・日本文化を伝える活動や家庭で外国人を受け入れる活動の推進によるもとなし地域づくりとしました。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして7ページ、三島町の方お願いいたします。

三島町（河内）

三島町建設課の河内と申します。朗読にて説明させていただきますが、よろしく願いいたします。

まず最初に、独創企業でございますが、整備・活動方針といたしましては確かな伝統の技で信頼・支持されるモノづくりの発信地であります。活動といたしまして、まちづくり団体を核とした地域内外ネットワークづくりによる地場産物の提供拡大及び伝統食品の新技術・高付加価値新商品開発の展開を見極めといたしました。酒蔵ネットワークづくりの推進とイベント等開催による酒づくり地域のPR展開及び地域産業としての食をテーマとした情報発信機能の強化を推進といたしました。鋸鍛冶・杜氏など伝統の技を持つ次代につなげる人材受け入れ体制の拡充と、活躍の場づくり及び総合学習へのテーマ提供、伝統技術の指導體制づくりによる子どもたちに向けた地域産業の魅力づくりを育てるというふうにまとめさせていただいております。

次に、元気に満ちた米産地でありますけれども、活動方針といたしましては「人と自然」の元気を生かした環境循環型農業の拡大地域であります。活動といたしましては、土づくり、栽培技術の開発など、環境重視・循環型農業の取り組み強化、拡大及び高付加価値米の生産・加工・販売システムづくりによる中山間地の活性化を見極めといたしまして、学校給食を初めとした地元産食材利用の展開による、地産地消の拡大とモデル化、これらを生産するとまとめさせていただいております。最後に、育てるでは地域営農体制の強化や生産組織・担い手の育成による循環型農業地域づくりを育てるといたしました。

次に、世代がつながる安住都市でありますけれども、整備・活動方針といたしましては自然空間を生かし、地域コミュニティを育む生涯ゆとり実感都市、下の方には自然と人、人と人とが融合し、地域力を生かしたコミュニティ育成モデル地域になるとまとめさせていただいております。活動としまして、まず見極めるでありますけれども、すべての世代が快適に生活できるゆとりの住環境づくり及び地域に開かれた学校を活用し、地域住民による教育環境づくりの2点で整理させていただいております。発信するでは、住民主体による里山など身近な自然の保全とまちづくりの手法を活用した生活の質を高める新たなスタイルの発信及び自然空間と地域コミュニティを生かした「子育て・福祉最適環境づくり」のモデル化を発信というふうに整理させていただきまして、最後育てるでは、世代間・地域間の交流（教育・福祉活動）を促進するコミュニティづくり、住民が主体となったまちづくりが実現できる、人材・組織育成システムを育てると整理させていただきました。ここでは、上のWANTとCAN等々で整理してありますとおり、人と人、人と自然、それらの豊かさを共存しながら実感できる生涯ゆとり実感都市としての整備活動を整理させていただいております。

最後になりますけれども、国際交流であります、活動方針といたしましてはアイデアと人の和でつくる新ながおかの独創イベントの発信地であります。活動といたしまして、新市民に憩いを提供する、自然との触れ合い・交流拠点づくり及びまちづくり団体、スポーツ・文化団体の活動を生かした、自由で新たなイベントをおこす、人材・組織づくりを見極めるで整理させていただきました。発信するでは、新たな独創的イベント等による人と人とのネットワーク化と地域ファンづくり、最後に育てるであります、地域内外との交流を促進するための、子どもからの人材育成と交流の場の創出というふうに整理させていただいております。

以上で説明終わります。よろしく申し上げます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

では、続きまして8ページ、山古志村の方お願いいたします。

山古志村（斉藤）

山古志村、斉藤です。よろしく申し上げます。

まず最初に、独創企業が生まれ育つ都市では、活動方針としまして、自然美、人間美から生まれる究極ブランドを守り、育て、独創企業に提供していく地域ということで、そのための活動といたしまして、見極めるでは伝統の技に科学技術を付加した究極の山古志ブランドづくり、それから原産地で養われた育てる・見極める技術の継承と産業化への活用。発信するでは、山古志ブランドの多様なジャンルでのプロモーションの展開、それから自然・人間がつくってきた独創地域のものがたりづくりと、全国への発信。育てるでは、自然体験を活用した、企業人育成プログラムの開発ということになります。

それから次に、元気に満ちた米産地では、自然にいだかれた技と人の汗が創り出す、安心安全食の体験地域ということで、見極めるでは山古志“食”ブランドの確立によるファンの獲得と、棚田保全への

展開、オーナー制度とか特区制度などを利用した方法があるのではないかとということです。発信するでは、棚田・はざがけ等、農山村の原風景保全とPRの展開、それから雪中貯蔵技術の活用による、新たな魅力食の提供とで、最後に育てるでは、農業体験プログラム開発と地域体制づくりということであり  
ます。

次に、世代がつながる安住都市では、未来人を育む地域全体フィールドミュージアムの創出ということで、まず見極めるではフィールドミュージアムを構成する資源、歴史、伝統を守り育てていく活動の促進。発信するでは、固有の景観や生活行事を守りつづけるネットワークづくりと発信。育てるでは、未来人の心を育てる、大人たちを含めた自然体験学習プログラムの開発としました。

最後に、世界をつなぐ和らぎ交流都市では、いつでも来たくなる“こころ”和らぐ資源特別区といたしました。見極めるでは、さまざまな地域資源が一体となった山村文化のブランド化、もう一つはさまざまな分野の交流による新たな交流資源の発掘活動。発信するでは、山村・雪国生活の多角的な発信ということ。最後に、育てるでは人材・情報ネットワーク活用により、地域の人たちが地域資源の価値について理解を深め、来訪者に提供する「もてなしのこころ」の育成ということといたしました。

山古志では、活用したい資源が4項目にわたってすべて共通しております。同じような言葉が出てくると思うんですが、我々のところの独特の雪国の山村文化と、それをはぐくんだ原風景を新市民、それとそれを超えたあらゆる人たちと共有し、将来にわたって守っていききたいという願いを込めて活動方針と、それを実現していくための活動を決めさせていただきました。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして9ページ、小国町の方お願いいたします。

小国町（笹崎）

小国町の笹崎と申します。よろしくお願いいいたします。

まず、小国町では全体を通しまして、先ほど質問ございました小国版のグリーンツーリズムのへんのかツーリズムに力を入れていきたいというのが根底にございます。

最初に、独創企業が生まれ育つ都市の部分でございますが、活動方針といたしまして、伝統技術の継承と独自技術を生かしたこだわりの里づくりということで、見極めるとしまして大学・研究機関との連携による小国和紙の研究と新たな製品化への取り組み、そして小国和紙・ログの新たな販路開拓という二つを挙げさせていただきました。発信するでは、小国和紙・ログなど、地球にやさしい技術のシンポジウムやサミットの開催、また伝統技術を活用した、ものづくりに関わる一連の体験・教育プログラムづくり。そして、育てるでは伝統技術を継承するための人材受け入れ体制の強化とそのための環境優先型社会を伝える指導者の養成を挙げさせていただきました。

次に、元気に満ちた米産地でございます。活動方針といたしまして、安全で味にこだわる食の里づく

りということで、見極めるでは、土づくりから始める安心安全なこだわり食材（米・なす・ぎんなんなど）の生産と製品開発の促進、そして体験型農業の推進による農村生活理解活動の推進の二つを挙げさせてもらっております。次の発信するでは、安全な食材のつくり方から食べ方までを発信する“トータル食学校”の創設、そしてこだわりの食を体験できる「小国御膳」の開発と、もてなし体制づくりを挙げました。育てるでは、安全な食を販売する人材の育成とぎんなん生産量日本一への取り組みを挙げました。ぎんなんについては、今のところ20ヘクタール以上の団地を持っております。今後も生産量日本一へ向けて頑張りたいと思っております。

3番目の世代がつながる安住都市でございます。活動方針といたしまして、元気で支えあう気持ちを育み全ての人にやさしい里づくりで、見極めるの部分では小国町で集落活動計画を多くの集落でつくっていただきました。それを中心としました集落活動の連携による防犯体制の一層の充実、そして21世紀の新しい食をテーマとした健康づくりの実践の二つです。それから、発信するという部分では、“健康イベント”開催による、地域の魅力をアピールしていきたいと、もう一つとしまして、農村の良さを伝える広報・情報発信の強化。育てる部分では、高齢者の経験・知識を地域コミュニティで発掘・継承する健康な里づくり、そして地域ボランティアの組織づくりと活動支援によるリーダーの養成を挙げさせていただきました。

最後の世界をつなぐ和らぎ交流都市でございます。活動方針といたしまして、へんなかツーリズムによるもてなしの里づくりということで、見極めるでは純農村型文化の発掘と継承、そして長期滞在型交流環境づくりの二つを挙げました。発信する部分では、農村交流モニターの全国募集と情報発信、そして大学との研究交流による農村文化学習フィールドとしての地域イメージづくりということで、これにつきましては一つの集落を中心としまして3年ほど前からでしょうか、新潟大学の教授、学生さんとの交流を続けております。これらについて広げていきたいというふうに考えております。最後の育てるでございます。地域における“もてなし”の意識確立と体制づくり、そして本を活用した新たな都市と農村の文化交流推進ということで、最後の本を活用したという部分では、私どもの小国町の姉妹友好都市でございます東京の武蔵野市から愛蔵書をお預かりしまして、愛蔵書センターというのを近々オープンする予定でございます。それらを核といたしまして、本を活用した交流をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。今非常に細かく具体的な内容について、それぞれの市町村の担当の方からご説明いただきました。どうもありがとうございました。

この辺お聞きいただきましたように、新しい市が生まれたときの地域らしさの価値をさらに高めようということで、こういう内容について整理をしていただいているわけでありますけども、地域別活動展開、特に新市になった場合の住民と行政がどういうふうな具体的な問題に取り組んでイメージをつくっ

ていくかと、こういうことになるわけでありまして、この全部をうまくやっていくとすごいまちになるなという気もいたしますけれども、相当大きな課題と責任が見えてきたような気がいたします。

それでは、別にどこということではございませんが、委員の方々からのご質問、それからご意見等これからいただいてまいりたいと思いますが、どなたか。

はい。

委員（長谷川孝）

その前に10分間休憩したらいかがですか。6時半から始めて1時間20分経っているんです。生理的な現象もありますので、10分間の休憩を要求いたします。

委員長（豊口 協）

どうですか、皆さん。

それじゃ、10分ほどお休みをさせていただきます。今46分ぐらいですから、55分から始めたいと思います。

委員（長谷川孝）

早速ご承認いただきまして、ありがとうございました。

休 憩

委員長（豊口 協）

それでは、お休み時間が終わりましたので、次へ進めさせていただきます。

ただいまご説明をそれぞれの市町村からご説明いただきましたけども、その内容につきましてこれからご意見、ご質問等がありましたらお受けしたいと思います。今日具体的にそれぞれの地域の新しい市になったときの住民と行政というのは一緒になって進めていく、かなり細かい問題点、個性のある運動といえますか、展開をご説明いただきまして、この次の段階で、じゃ全市を挙げて新ながおか市をトータルでどんなことに対してプロジェクトを固めて進めていくかと、その次の段階に入ってそういう大きな議論というのが図られるだろうと思います。今日は今までご説明いただいた内容につきまして、それぞれの中身をよくごらんいただきましてご意見をいただきたいと思います。どなたでも結構でございます。どこからでも結構でございます。どうでしょうか、これは大変だなという方いらっしゃいませんか。

委員（米持昭次）

私は特に意見ありません。

委員長（豊口 協）

ほかにご発言。特にご発言なければ、こういうことでさらに進めていこうというふうにご了解をいただいたと判断いたしますが、よろしゅうございますか。

「はい」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、今日の議題であります次の新市全体で取り組む活動展開、いよいよ新しい市がスタートしたときに市全体でどういう方向へまちのイメージといたしますか、具体的な内容を進めていくかということになります。共通のプロジェクトということになりますが、その案ができております。これは、事務局の方から説明お願いいたします。

事務局（竹見）

続けて事務局からご説明をいたします。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

お手元の資料ナンバー４をごらんください。新市地域らしさ価値の構築に向けた重点実現項目と新市全体で取り組む活動展開です。

１ページをごらんください。こちらは、重点実現項目を達成していくための新市全体で取り組む活動展開を整理してきた中での流れをご説明をしております。上の白い部分が今までの住民の方々のみちづくりワークショップあるいは有識者ヒアリング等の調査の結果から整理してきた経過です。小委員会のご意見あるいは今までも見極めるとか発信するとか育てるといった観点の中で重点課題を出して、それから新市全体で取り組む活動展開をしてきた経緯です。それから、下の部分が自治体ワークショップによって整理してきた経緯です。前回も委員さんの方から地域の連携とかそういったこともご意見ありまして、自治体ワークショップの中でまず一番重要なのは各地域における取り組みの活動展開であると、その活動展開を発展させて、地域同士でどういう連携ができるか、あるいはそれを各市町村といたしますか、地域の活動展開から全市として取り組んでいった方がいいものとか、そういったものをワークショップで整理をして事務局の方でまとめさせていただいたものが２ページ以降にあります。

２ページをごらんください。こちらは独創企業が生まれ育つ都市です。左の方から新市地域らしさ価値を高める視点です。これは、以前にもご説明させていただきましたように、見極める、それから発信する、それから育てるといった観点で整理をしております。真ん中が重点実現項目です。一番右が新市全体で取り組む活動展開ということで、整理をしております。ただ、新市全体で取り組むことと、それから連携という部分がちょっとはっきり区分ができなかったものですから、連携して取り組む部分もこちらの中に含まれているというふうにお考えいただきたいと思います。

まず、見極めるという部分ですが、一つ一つ説明しますと時間がかかりますので、ちょっとかいつまんでご説明をさせていただきます。見極める部分では、ネットワーク強化等の流通革命、あるいは交通拠点創造の推進という形で例示をしております。下の例ということで書いてございますけれども、これは上の活動展開を説明する上で一つの例としてこちらの方にご紹介をしております。例えば新技術による長岡版流通構造の改革、情報技術とか物流技術、それから金融技術の高度な融合を図ることが考えられます。

それから、発信するということですので。こちらにつきましては、例えば海外からの技術者も快適に過ごせる情報・交流・滞在環境の整備と発信、例としては国際ネットワークホテルを活用した情報交流機会の拡大や複合都市機能の再構築、それから地域に伝わる伝統技術と地場産業の連携による新たな需要

を掘り起こす。高付加価値商品の創出と競争力のある新ながおかブランドの商品開発と発信です。今ご紹介したのは、地域連携にかかわるものとしても考えております。

それから、育てるということですが、新たな雇用を創出する創業環境の整備・促進ということで、大学の研究成果を企業に移転する機関とか、あるいはシステムの整備充実というのが例で考えられます。それから、下の未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進ということでは、産業界が求める人材像、創造力、それから異文化理解、語学力に即した高度教育の推進ということで、例としては理数系、語学、経営技術に特化した中高一貫校の創設、学生の海外留学支援ということが例として考えられます。

3ページをごらんください。こちらが元気に満ちた米産地ということで、こちらも新市全体で取り組む活動展開と、それから連携の部分を含めて書いてございます。まず、見極めるという部分では、上から三つ目ですが、土づくりに代表される農産物に重要な安心感を大切にブランド育成と地産地消の促進ということで、こちらも連携が意識されています。例示としましては、減農薬減化学肥料栽培の全市への拡大、それから遺伝子保存施設との連携システムづくりというのが例として考えられます。

発信するというところです。こちら下に書いてございますように、美しい農村地域の実現と地域の特産品や伝統の技を活用した究極の食開発ということで、各地のはざかけ米とおいしい水、そして酒蔵で究極の酒ができるんじゃないかという例示です。

それから、育てるということです。こちらにつきましては、農業体験と観光産業の連携により地域内外での地産地消促進ということで、住民の方々のまちづくりワークショップでも地産地消ということが言われていたけども、こういったものも全市で取り組んでいく活動展開ではないかということで載せております。それから、下から2番目ですが、農村文化の継承や農村の活性化ということで、各地域でも農村文化というのがずっと継承されてきたということで、この例示としましては農村体験を通じた地域コミュニティの連携が考えられます。

次、4ページです。こちらは世代がつながる安住都市ということで、見極めるという部分では、一番上に書いてございますように自然の力、人の心などを活用した新たな予防医療の充実ということで、例示としましては8市町村豊かな自然環境がございますので、自然環境を生かした触れていやすタッチセラピーの研究、あるいは市民カウンセラーの育成ということが例示として考えられます。それから、上から五つ目ですが、環境と共生する「ごみゼロ」社会の創出や新エネルギー活用ということで、自然に戻る素材の利用促進、あるいは新エネルギーによるヒートアイランド対策ということが考えられます。

続いて、発信するでございますけれども、「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進ということでは、上から2番目にありますように民間資本やNPO、ボランティアを活用した福祉拡充ということで、オープン型の福祉施設の展開が考えられるだろうということです。それから、地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出では、上に書いてございますように子供たちの才能を早期に見出し、地域

で伸ばす仕組みづくりということで、すべての幼児・子供の興味を見つける教育システムの開発が考えられます。

それから、育てるというところで、「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となるということですけれども、上から二つ目の星印ありますように地域住民による歴史・自然・伝統文化を活かした地域学校教育プログラム開発と実践ということです。これも各地域でも実際に行われているところもございます。それから、一番下にございますように日本一の通学環境の整備ということで、学校に行くのが楽しくなる芸術作品の通学路への展示とか、あるいは安全安心を地域で創意工夫していくということが考えられます。

続いて、5ページです。こちらが世界をつなぐ和らぎ交流都市です。見極めるという部分です。こちらが上から二つ目に書いてございますように、憩いの場として多彩な交流が生まれる、水辺空間の創造ということで、舟運の復活と新たな水辺拠点づくりというのが例として考えられます。それから、一番下の星印にありますように地域資源、各地の歴史とかまつり、それから人、特産品を提供する、遊び・楽しさを連動した観光ネットワークの開発ということで、これも各地域の連携を意識しております。例としましては、地域の神楽舞共演、新ながおか歴史ミュージカルの創作・公演ということが考えられます。発信するというところでは、こちらは上から二つに書いてありますように、利雪・親雪で豪雪地帯を観光資源として発信ということで、楽しい雪観光等の、先ほどグリーンツーリズムという言葉ありましたけれども、ホワイトツーリズムの開発というのが考えられます。それから、各地の特色あるまつりやイベントの掘り起こしと連携による独創的なイベント・まつりの開発ということで、例示としましては新ながおか花火旬間の設定ということが考えられます。

育てるというところでは、二つ目です。訪れたい地域になるための地域が一体となった魅力度向上ということで、100年とかもっと300年後の世界遺産を目指した取り組みが考えられるんじゃないかと、それから一番下に書いてございますように全市民が地域の魅力への認識を高める交流人材、そしてもてなし体制の創出ということで、例示としましては新ながおか交流マイスター制度、それから地域資源キーパーソンの発掘ということが考えられます。

以上、全市で取り組む活動展開、それからの連携等も含めた形でワークショップでの作業の整理、それから今までの住民ワークショップあるいは調査で整理した結果のものをまとめさせていただいております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。今ご説明いただきましたように統合プロジェクト、連携プロジェクトと二つのものがこの中に含まれておりますけれども、30万新都市になったときに、一体何ができるのか、何をしなければならないのかというふうなことについての具体的な事例が幾つか併記されております。この内容につきましては、さらにこれから詰めていくこととなりますが、ご質問、ご意見等がありました

からお受けしたいと思いますが。

委員（山本俊一）

これ見させていただいて意味がわからんのがいっぱいあります。だっと流して何かいいことばかりずっと書いてあるみたいなんだけど、これは何を言っているのか一向わからないんです。どうも私だけなのか、あれなんですけれども、もう少しきちっとこののはこういうことなんだというのを、私だけでしょうか、ちょっとわかりません、実際。そして、こうやって羅列してあるものを全部やるなんていうのは大変なことだし、基本的には30万都市構想の中で、これとこれとこれは確実にやるんだとか何とかというふうな形のもので市民の人たちにお示しをした方が非常にわかりやすいというふうに思うんですけども、そのあたりどうでしょうか。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

事務局の方から何か。

事務局（竹見）

ご指摘のように、例示をもう少し詳しくちょっと29日まで考えていきたいと思っています。それから、こちらに今日ご紹介しましたのは、可能性のあるものにつきましてこうやって掲載をさせていただいております。今日と29日、小委員会があるわけなんですけども、そちらの中で委員さんの方で特にこちらの部分を強化していったらいいんじゃないかとか、そういったご意見も伺えればと考えております。

委員長（豊口 協）

ということでございまして、今日ここで今説明をしてもらいました内容は、こういうことがあるよと、この中で特に小委員会としてはこの問題については重点的にやるべきであるとか、これは余り重要じゃないからBクラスに落とした方がいいんじゃないかとか、そういうことも含めてご意見をいただければと、こういうことのように。山本委員、よろしゅうございますか。

どうぞご意見をいただきたいと思いますが。

副委員長（二澤和夫）

今山本委員の方から出ましたように、私もこれ精いっぱいいろいろのことを書いてあるという感じがいたしますけれども、もう少し絞ってもいいんじゃないかなという気がいたしますが、少し山盛り一杯というふうな感じがしないでもないかというふうな気がいたしますので、この中で優先順位をつけるというか、これじゃ本当に全部やるのという話もあろうかと思っておりますので、少し整理をしたらいいんじゃないかなという気がいたしております。

以上です。

委員長（豊口 協）

この中で、私の立場から言いますと、2ページの育てるところの新たな雇用を創出する創業環境の整備・促進というのがあります。その下に大学の研究成果を企業にというふうに書いてあります。これ

は、今長岡には三つの大学があるわけですが、三つの大学それぞれ全部全く違った分野の大学でありまして、本来なら総合大学があって三つの学部があるというふうに考えてもいいような特徴を持っているわけです。ですから、長岡大学なんかの場合には経営的な面からいろんな問題提起ができるし、研究もできる。技術科学大学の場合には、一つの新しい技術、革新的な技術ないしはそういった科学的な分析から提案をしていくかなり大きな力を持っている大学ですし、そういったものを実際の商品化といたしますか、人々の生活に結びつけるという段階では、造形大学はデザインという力でそれができるといことになっていきますので、この三つの大学のそれぞれの専門分野が連携をしまして、そして地元の企業と共同でプロジェクトを進めるということになりますと、新しい30万都市の場合には相当の成果が生まれてくるような気がするんです。今までは、何か大学の敷居が高いなんていうお話が随分ありまして、そういうふうな歴史を日本の大学がつくってきたんだろうと思いますけれども、そういう垣根を全部取り払った状態で、本当に産学官、市民協働のすばらしいプロジェクトが一つ一つ毎年、一つでもいいんですけども、一つずつ生まれていくというふうな、そういうシステムをぜひともつくっていききたいなという気はいたしております。積極的な大学活用ということだと思っておりますけれども、かなりの優秀な人材が大学におられますし、それを活用しない手はないだろうという気もいたしております。この辺はかなり具体的にできそうだなというふうな気がします。

委員（佐々木保男）

さっきのと関連するんですけど、説明していただいて、これ中には例が書いてあるんですけど、例を読むとかえってこんがらがるのは二、三目についたんですけど。まず一つは、2ページの海外からの技術者云々というところなんですけど、例として国際ネットワークホテルを活用してということ、これは国際的なネットワークのホテルも誘致してということなんですか。現実には長岡地域には国際的なネットワークのホテルはないでしょう。

事務局（竹見）

これは、世界にはこういった国際ネットワークホテルがあるわけなんです。そこを情報交流機会の拡大ということで、そこに長岡のいろんな情報をそこで発信したりして、いろんなビジネスマンが来るわけなんで、そういった国際ネットワークホテルでそういった長岡の情報を得る機会を拡大していくと、そういう意味なんです。

委員（佐々木保男）

それともう一つ、何ページですかね、4ページの人々の生活を守る云々というの、夏の道を冷やすクールロード何とかというのはどういうことですか。

事務局（竹見）

実は県内でもそういった取り組みがあるんですけど、ロードヒーティングとは逆に夏場に冷やすことによって歩く人に快適に歩いていただくということなんですけど、これは特に行政がどうのこうのという話ではなくて、例えば緑化をしていくことによって日差しが照りつけるところを日陰にしたり、そう

いったことも考えられるという例示です。

委員（佐々木保男）

さっきも言いましたように、例を読むとかえってこんがらがるケースがあります。

事務局（竹見）

わかりやすく書いていこうと思います。

委員（山本俊一）

それから、今仕分けの仕方が独創企業が生まれるとか、それから米の云々という今の柱の中での仕分けの仕方やっていますけれども、やはりそれ以外に、例えばハードの部分で8市町村が一緒になったときの交通体系だとかいろんな違う分野のものがあると思うんです。そういうふうなものが逆に基本的にはこれはこういう形でやろうというふうなものが出てくれば、意外と住民の人たちもわかりがいいというふうなものもあると思うんですけれども、だからこの四つの柱の中での仕分けの仕方以外にもやはり全般で考えられるようなものはあるんだろうというふうに思うんですけれども、そのあたりはどうでしょうか。

事務局（高橋）

確かにそういう考え方もあると思いますが、まず今のお話の中で要するに具体的な部分はこれから法定協議会の中での建設計画の中で出てくる話だと思っています。今は、その前段階の整理という考え方ですので、あくまでも将来の構想を今練っていく段階ということで、その作業を今やっているということでご理解をいただくしかないのかなと思っています。

それから、全体の仕分けの話としましては、この部分については四つの柱と、それからそれを貫く一つの統合ビジョンという話は今までの協議の経過の中から出てきているものですので、この形で進めたいというふうに考えております。ただ統合ビジョンについて、この独創企業が生まれ育つ都市というような四つの柱と同じようなことを考えるということであれば、恐らくはこの四つの柱の中からそれは出てくるものだという理解をしております。

以上でございます。

事務局（北谷）

次回実はお話ししようと思っていたんですけども、今大体100ページぐらいになるんですが、この冊子、その中で30万都市全体を見て、例えば30万都市だから都市機能的に考えればこういう機能が必要だろうとか、そういったことは別途ございます。そういうことをおっしゃっているんだろうと思いますが、それはあります。これは、ちょっと余談になるかもしれませんが、委員長ご推薦の県庁とかそういったところは別のところで各ページ用意してあります。それは、また次回ご議論いただきたいと思います。

それと、ただ1点、例えば今高橋が申し上げたとおり、この後により具体的な建設計画というのが出てきますので、そこではより具体的になります。この将来構想の中では、例えば栃尾のどこどこに何をつくったらいいとかそういったことは一切書くべきものではないというふうにご理解いただきたいと

思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。ご指摘のようにインフラが全然ここには出てきていない、俎上には。ですから、水の問題にしても通信網の問題にしても交通網にしても道路問題にしても、一切まだ姿をあらわしておりません。それは、さらに次の段階で、これはかなり多面的ないろんな情報整理をしていかないとまくいかなと思いますし、そこで具体的なさまざまなご提案を、さらにご意見を伺っていくということになる気がいたします。

委員（村上雅紀）

第7回の小委員会で新市将来構想書の案件が配られたときに、具体的活動項目の分野別、環境、文教、行政、財政、建築、土木、福祉保健分野というのがここに出てくることになっているんですけども、それ今のとリンクしているとは思いますが、それも出てこないんでしょうか。見ると具体的活動項目では分野別というふうに形でなっているんで、これは将来構想書の中には入ってこないんでしょうか。

事務局（竹見）

当初そういった分野別ということも考えていたんですけど、活動展開を市民の皆さんの視点で考えると、活動展開そのものが分野をまたがっているんです。分野別というのは、さらにまたいろいろ建設計画というお話がありましたけれども、具体的な施策ということになりますので、将来構想の次の段階になろうかなと思います。ですので、当初はそう考えていたんですけど、こういった作業をしている段階でいろんな分野にまたがってくる活動になりますので、今回は見送りということになります。

委員（村上雅紀）

ということは、これをもって、今理事がおっしゃった、これをもって最終将来構想書という形になってくるということによろしいんですか。

委員長（豊口 協）

さっき事務局長からお話がありましたように、次の29日には、さらに具体的な今ご質問あったような内容については説明というか、案が出てくるということです。まだ今日入れて4回この小委員会はありますので、まだまだ先が長いというように考えております。

事務局（高橋）

今のお話なんですけども、確かに84ページの将来構想書を考えているということで、第何部がどういう項目が入るかということをご説明をさせていただいているわけなんですけど、その後整理をしております、今100ページ近くに実は膨らんでおります。それとともに、それぞれの部の構成とその中身についても少し変更しております。それらを含めまして29日の日にご説明をさせていただく予定だったもので、その部分ご質問いただくまでこちらの方で説明できなく申しわけなかったんですけど、今時点では将来構想書の全体の構成を今まで検討してきたものの形から積み上げて、少し変更をかけております。その部分についても29日の日に説明をさせていただいた上で、中身についてもご議論をいただく予定でございます。

ます。

以上です。

委員長（豊口 協）

よろしゅうございますか。

はい。

委員（山本俊一）

ただ、これさっき一番最初に申し上げたように非常に言葉がよくわからない、それから二澤助役さんがおっしゃったように目いっぱい何か出しているみたい、本当にこういうのが出たときにこれ本当に担保できるのかというふうな形になってくると思うんです。ですから、やはりこれはもう少し絞り込んできちっとわかりやすく、それからこれがポイントだろうというふうなのをもう少しきちっと絞り込むような形にして、大体これぐらいの項目をやろうよというふうな共通認識を持ってやった方が、よりきれいにまとまるんじゃないかなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。ご意見として、事務局がお答えになりますか。

事務局（高橋）

わかりやすくという点につきまして、先ほど申したとおり工夫をしたいというふうに考えております。

それから、項目数を絞るかどうかということにつきましては、先ほど担当の方からも話がありましたように、この将来構想をどういう形につくって、どういう形で出していくかということは、まさに小委員会の中でご議論をしていただいて方向を決めていただきたいと思いますので、もしご議論の中でそういう方向が出るのであれば私どもとしてはそういう整理をいたします。ただ現実的にアンケートであるとか住民のワークショップ、それから自治体のワークショップ、それらの中からそれぞれの項目についてこういう意見が出まして、それらを整理するとこういう形になるということでご提示をさせていただいているというものです。

委員長（豊口 協）

ということで、小委員会の責任が非常に重いということになるんですが、この内容について先ほどもちょっと私が申し上げましたけども、これとこれはぜひともやりたいというか、やるべきであるというふうなご意見がありましたらそれをおっしゃっていただきたいと思いますけど。

事務局（竹見）

委員長ちょっとよろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

事務局（竹見）

それで、今回かなりの数ということでお思いの方もいらっしゃると思うんですけど、こちらは10年間

でこれをすべてやるとかそういうことではなくて、将来構想ですので、今後30年とか50年とかいう形で考えております。そういうことですぐ10年間の中でやるとか、すべてをやるとか、そういうことではないというふうに考えていただければいいと思います。ですので、新市地域らしさ価値を高めていくためには、この次に来る施策という部分が割と地道な部分もありますし、ずっと続けていく部分もあるということでお考えになっていただいて、そういった観点からもお考えいただければと思います。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。長期的に考えようということですか。

委員（山本俊一）

30年と思えばいいのか、50年と思えばいいのか。

事務局（北谷）

その議論は、たしか前回、前々回もあったと思うのですが、どの時点からスタートしてどう達成していくかということではなくて、10年先に達成できるかもわかりませんし、5年先かもわかりませんし、こういった方向として頑張っていきたいというのが構想だと思っておりますので、今担当が言いましたように、じゃ30年なのか50年なのかということではなくて、それは30年かもわかりませんし、50年かもわかりませんし、1年後かもわからない。そこに向けて将来構想としてどういう方向で頑張っていくかというのを整理しているという理解をしております。

委員（長谷川孝）

今事務局のおっしゃるとおりだと思えます。構想があって、その次に計画があるわけです。この構想に基づいて具体的な計画を5年スパン、10年スパンでやるのかと、中長期的な計画があると思えます。ですから、私は構想は構想として志を高く持つ、それは必要だと思います。そして、その構想に基づいて具体化する計画の中、今度実施計画もあります。そういった中でいろいろな議論が新市の中で培われていくのではないかと思いますので、構想は構想でよろしいかと思います。ただし、先ほど見附の助役さん、それから長岡の助役さんもおっしゃったが、余り文言をこね回さなくて、わかりやすい構想にさせていただきたいと思います。と申しますのは、八つの市町村にそれぞれの長期構想があるわけです。これいつか朝日委員ですか、おっしゃったが、構想を全部見せてほしいというわけでお願いしました。その八つの小国町も含めて長期構想など見たらほぼ大体同じなんです、そこに流れるものは、それをじゃ地域でどのように計画をつくって具体化するかということが、それぞれの自治体で工夫しているわけですから、構想は構想でいいと思います。ただし、余り構想流れにならないようにきちんとしたその中で、その後での長期計画、実施計画がこれからの具体化されるわけですから、それと余り乖離しないような文言表現にさせていただけたらよろしいかと思います。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。明快に分析をして説明をしていただきまして、次の29日にさらに次の段階の検討内容が提示されると思います。それを含めて今日の議論を一緒にやっていきたいというよ

うに考えております。

ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（山本俊一）

一つだけ、私は構想で期限がないなんてことないと思うんです。やっぱり構想というのは何年の先を見通した形の中でこういうふうな構想を打ち立てますと、それで基本計画、実施計画というのがあって、それで技術革新だとかいろいろのことがあるわけだから、その構想の見直しとかなんかというのはありますけれども、構想の期限が何もないなんていうことはないと思いますけれども、一言だけ。

委員長（豊口 協）

今日非常に具体的なご意見随分たくさんいただきましたけども、次の29日に出てくる内容、これも非常に重要な内容を含んでいるようであります。それも含めて今日のこの問題をあわせてご検討いただければというように考えております。

ほかに。

はい。

委員（長谷川孝）

今山本助役さんがおっしゃった、確かに構想に期限がきちんと示されておらなければいけないと、これ確かだと思います。各市町村が長期構想を策定する場合には、大体今まで10年スパンでした。だから、20年、30年、50年、それも確かに長期という意味では大切かと思いますが、今のような社会流動の激しいときに50年、30年見ても、確かに途中でローリングしなけりゃいかんわけです。だから、最低10年ぐらゐのスパンでお考えになった構想がよろしいのではないかと私は思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにご意見ございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、時間も参りましたので、今日の小委員会はこれで終わりたいと思いますが、29日、さらにさまざまな角度からご意見をいただいて次の段階に入っていきたいと思います。今日はどうも長時間大変ありがとうございました。

事務局へお返しいたします。

事務局（高橋）

今ほど委員長の方から話がございましたが、次回の8月29日のご案内を、期間ももうありませんので、机の上にご案内文を差し上げてあります。これをもって正式なご案内ということでご了解いただきたいと思います。8月29日金曜日ですが、夕方の6時30分から同じこの会場で第11回目の小委員会を開催し

たいというふうに考えております。よろしく願いをいたします。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

午後 8 時37分 終了